

2009 年度夏の三者総会 議事録

2009 年度三者事務局校・大阪大学

開催日時：2009 年 8 月 27 日

於：パノラマランド木島平

1 2009 年度三者事務局校（大阪大学）

1.1 活動報告、役職校承認

三者事務局から 1 年間の活動報告がなされ、また以下の役職校の担当が承認された。

2012 年度三者センター校	総合研究大学院大学
2012 年度三者準備校	名古屋大学
2011 年度三者事務局校	神戸大学
2011 年度三者名簿校	広島大学

2 2009 年度三者センター校（金沢大学）

2.1 活動報告、暫定決算

三者センター校から 1 年間の活動報告がなされ、また 2009 年度夏の学校の暫定決算が承認された。

2.2 繰越金問題

現在 YONUPA の繰越金が 160 万円に達していることに対して、基研の方から多すぎるとの指摘を受け、繰越金の適正額について議論するように求められた。それに対しセンター校から

旅費補助を例年より多めに出すことによって、数年で 80-100 万円まで繰越金を減額する。

との提案があり、この提案が承認された。

この提案の根拠としてセンター校があげたものは以下の通り。

1. 夏の学校を1回開くのに必要な額は約200万円である。
2. そのうち約100万円は外部団体からの寄付により、残りの100万円は参加者の参加費による。
3. 参加者の参加費は最終的には施設使用料等にあてられるが、施設使用料等は参加費が集まる前に支払う必要がある。そこで現在は、一時的に繰越金を使用してこれにあてている。これに必要な金額を概算し、参加者の増減を考慮に入れると、繰越金が80-100万円あればこれを支払える。

提案承認までにおける、参加者からの意見・質問およびセンター校からの応答を以下に記す。特に繰越金や旅費補助の扱いについて非常に重要な意見が多数出ましたので、三者総会にご参加いただけなかった方々を含め、三者若手の皆様全員のご参照をお願い致します。

2.2.1 繰越金の適正学についての質疑応答

意見： 繰越金を減らすのは賛成である。センター校さんの提案は良いと思う。

質問： 160万円が多いという理由は何か？

センター校： 夏の学校1回で200万円なのに、160万円持っているというのはいくら多いだろうと思う。

質問： 夏の学校1回分の予算が200万円というのはいくら多いのか。

センター校： 揺らいでいるが、その揺らぎは旅費補助の増減に吸収してきている。

質問： 参加者はずっと減少してきているのか。

センター校： 増えたり減ったりしている。

2.2.2 繰越金の減らし方についての質疑応答

質問： 1,2年で減らすのではなく、もっと長い期間かけてゆっくり繰越金をへらしていくことはできないのか。

センター校： それも考えたが、繰越金を減らすとなったのならすぐに減らしてしまう方が良いのではないかと考えた。

質問： 旅費補助を多めに出すのではなく、来年度だけ寄付をお願いする金額を減らす、あるいはもらわないことにして繰越金を消費するというのはどうか。

センター校： 寄付金を減らすよりも旅費補助を多く出す方が、三者若手全体にメリットがあると考えた。

質問： 旅費補助を多く出すのではなく、参加費を減らす方が公平なのではないか？

センター校： 参加費は遠くから来られる方も、近くから来られる方も同じ金額なので、それを減らすよりは、旅費補助の額を増やす方が公平となると考えた。現在のところ旅費補助は補助を希望する方の旅費を全て補助できているわけではない。

質問： 2001 年度にも繰越金の額が問題となり、270 万円から 100-150 万円に減らしたとあるが、その際にはどのようにして繰越金を減らしたのか。

センター校： 外部団体からの寄付を頂かないことで減額した。

意見： 寄付金をもらわない方法よりは、他の方法の方が良いと思う。

意見： 繰越金と呼んでいるが、実際は翌年の夏の学校を開くために必要なお金もそこに含まれているのだから、「繰越金」という名前を変えてはどうか。

質問： 基研の方々に寄付のお願いをする際に、繰越金の必要性について説明したのか。

センター校： どのような予算を組んでいるかのご説明しているが、繰越金の必要性については説明しなかった。

意見： 繰越金が最低これだけはないと夏の学校が開けないということは、ちゃんと伝えておくべきだと思う。

意見： 旅費補助を増やすことで繰越金を減らすことには賛成だ。しかし旅費補助の補助額や希望者数などの情報は、現在のところセンター校の方以外は知ることができないが、そのような情報は（例えば秋の三者総会などで）文書などにより公開した方が良いのではないか。

センター校： 確かにその通りだ。

意見： 外部団体に寄付をお願いする際に、旅費補助の重要性を説明してはどうか。旅費補助を多く出せるようになれば、それだけ参加者が増えるだろうから、素粒子・原子核・高エネルギーの分野を将来志す学生が増えるだろう。

センター校： 報告をする際に、そのように報告します。

質問： 繰越金の額は毎年増えているのか、減っているのか。

センター校： 少し増減はあるが、ほぼ 150 万円を維持してきている。

質問： 旅費補助の額も毎年変わっていないのか。

センター校： 夏の学校の準備にかかる費用の増減などにより、10 万円程度は揺らいでいる。

3 2009 年度三者名簿校（大阪市立大学）

三者名簿校より 1 年の活動報告がなされた。また三者若手名簿のデータベース更新の際に登録作業を行っていただけなかった研究室が半数以上あったことにふれ、未登録の研究室の連絡責任者の方に登録をお願いする旨の連絡があった。